

事例紹介

FIT切れ発電設備を蓄電池で有効利用

事業所名称	学校法人 西岸寺学園	施設概要	パネル：- kW パワコン：- kW 蓄電池：12kWh
施設名	西之表幼稚園	電力用途	平常時：西之表幼稚園の電源 *****
所在地	西之表市西町	発電開始	令和3年11月

取組のきっかけ	FIT切れとなる太陽光発電設備を有効活用するために蓄電池を設置した。 経費やCO ₂ 削減のために実施した。
事業の取組方法	自家消費用に太陽光発電設備設置後、蓄電池を追加設置。 蓄電池は幼稚園事務室に設置（既存の太陽光パネルは法人所有の園舎兼寺院の屋上に設置。） 余剰売電契約（九州電力）はしている。FIT契約はしていない。
事業の成果	電気代（使用料そのもの）が削減できた。
課題	配線が複雑化した。また、蓄電池を事務室に設置したため、事務室が狭くなった。
今後の展開	将来的には廃棄するときに必要な手順や資金の準備をしておきたい。

年間増収効果	年間CO ₂ 削減量
約8万円 (削減電力から算定)	1.33トン

注目ポイント

- ・FIT切れの発電設備に蓄電池を追加することで、夜間も活用できるようになり、買電量を減らして電力の自給自足を目指す。



↑
蓄電池（事務室に設置）

←電力を使用している幼稚園
（西之表幼稚園）